

東京ユニバーサルフィルハーモニー管弦楽団 第25回定期演奏会

ユニ・フィルのメンデルスゾーン生誕二百年記念演奏会に川島成道が登場。音楽監督・常任指揮者の三石精一の指揮により前半はまず序曲「フィンガルの洞窟」。冒頭から三石の熟達の棒による海や波の描写は諦観の念すら感じさせ、ヘブリディーズ諸島周辺の荒涼たる情景が眼前に浮かび上がって来る。高潮部分も実に凄絶な響きでドラマティックな名演だった。次は川島のソロによるヴァイオリン協奏曲ホ短調で、彼にとって十年前のデビュー時の演目だけに気持ちの入り方が違っていた。曲の隅々まで血が通い神経が遣われ、カデンツァも思い入れたっぷり。クライマックスも実に鮮烈で、川島の澄み切った音色はこの曲によく似合う。後半は交響曲第3番イ短調「スコットランド」。「フィンガルの洞窟」同様、後世の数々の交響詩の先駆のような作品だけにここでも三石の卓越した描写力が冴えに冴えわたり、一大叙事詩を描き切る。ことにフィナーレは雄弁で豪快な名演だった。 (4月10日、東京芸術劇場) (浅岡弘和)